



ゼロカーボン推進に向けた取組

令和5年8月4日



秋田県 湯沢市 (環境共生課)

湯沢市の概要 ~全般~

【人口】 41,021人 (R5.4月末)

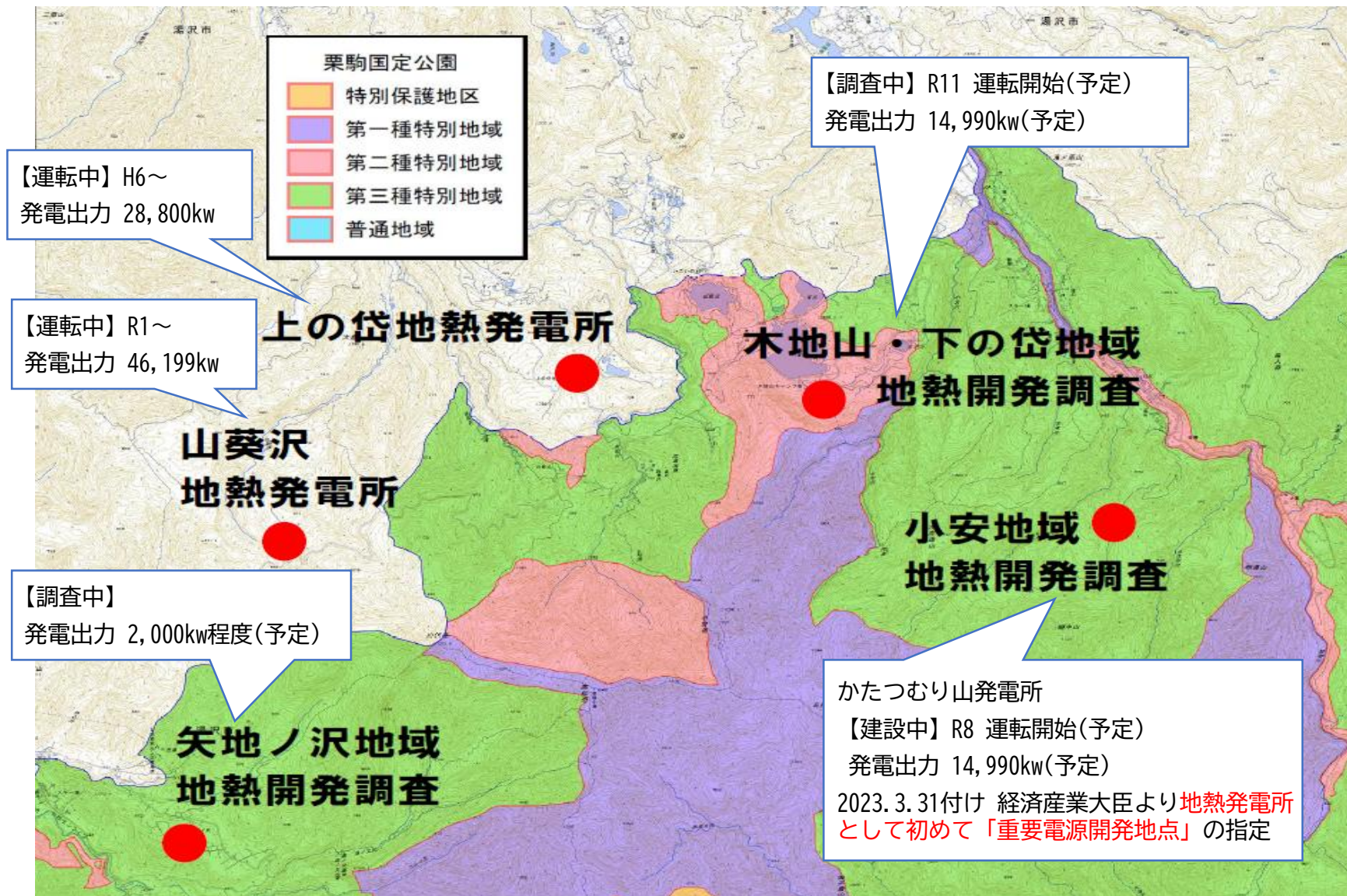
【面積】 790.91km²

(特徴)

- ・ 秋田県の南の玄関口、小野小町生誕の地
- ・ 面積の80%を占める山林と豊富な温泉群
- ・ 稲庭うどん、日本酒、漆器等の伝統産業



湯沢市の概要 ～地熱発電～



湯沢市の概要 ～地熱発電～

※令和9年3月
かたつむり山発電所運転後

地熱発電所（発電出力1,000kW以上）

県	市町村	発電所名	設備容量
北海道	森町	森発電所	25,000
岩手県	八幡平市	松川地熱発電所	23,500
		松尾八幡平地熱発電所	7,499
	雫石町	葛根田地熱発電所 1号	50,000
		葛根田地熱発電所 2号	30,000
秋田県	鹿角市	大沼地熱発電所	9,500
		澄川地熱発電所	50,000
	湯沢市	上の岱地熱発電所	28,800
		山葵沢地熱発電所	46,199
		かたつむり山発電所	14,990
福島県	柳津町	柳津西山地熱発電所	30,000
熊本県	小国町	わいた地熱発電所	2,000
大分県	別府市	杉乃井地熱発電所	1,900
	九重町	滝上発電所	27,500
		滝上バイナリー発電所	5,050
		大岳発電所	13,700
		八丁原発電所 1号	55,000
		八丁原発電所 2号	55,000
		八丁原発電所（ハイター）	2,000
		菅原バイナリー発電所	5,000
鹿児島県	霧島市	大霧発電所	30,000
	指宿市	山川発電所	25,960
		山川バイナリー発電所	4,990
		メディポリス指宿発電所	1,580

運転中
運転中
建設中



市町村別で3番目

順位	市町村	設備容量
1	九重町	163,250
2	雫石町	80,000
3	湯沢市	74,999
4	鹿角市	59,500
5	指宿市	32,530
6	八幡平市	30,999
7	柳津町	30,000
7	霧島市	30,000
9	森町	25,000
10	小国町	2,000
11	別府市	1,900



市町村別で2番目

順位	市町村	設備容量
1	九重町	163,250
2	湯沢市	89,989
3	雫石町	80,000
4	鹿角市	59,500
5	指宿市	32,530
6	八幡平市	30,999
7	柳津町	30,000
7	霧島市	30,000
9	森町	25,000
10	小国町	2,000
11	別府市	1,900

出典：JOGMEC 日本の地熱発電

https://geothermal.jogmec.go.jp/information/plant_japan/

湯沢市の概要 ～地熱の産業利用～

水耕ミツバ栽培

豪雪地域においても地熱活用による低コスト化で周年栽培を実現

- ◇沿革 昭和58年 引湯施設建設
昭和59年 鉄骨ビニールハウス20棟建設
昭和60年 生産開始

◇ハウス面積 100坪/棟

◇現有棟数 18棟 (H28現在)

◇温泉水の循環フロー

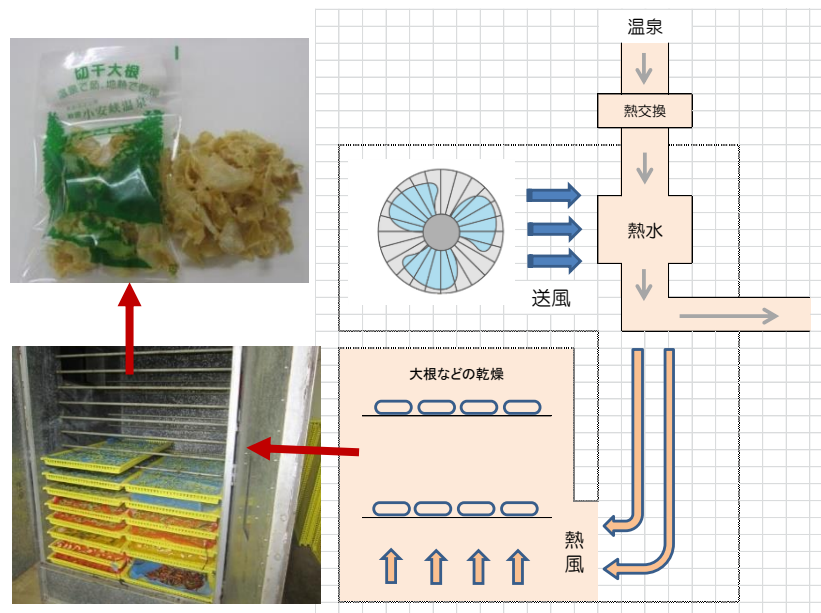
小安温泉井から熱水を約2.7km引湯。
引湯した熱水は、ハウスの室温暖房を経て水耕ベッド内の液温を加温し、最終的にはハウス周囲の融雪用水として利用。



乾燥野菜（切干大根など）

完全無添加！
温泉水の熱風で乾燥させた地域特産品

- ◇沿革 昭和55年 地熱利用農産加工所建設
- ◇品目 切干大根、乾燥野菜(りんご等)の製造、山菜の煮沸など



脱炭素化に向けた主な動き

令和4年2月

第2次湯沢市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）を策定

令和4年6月

湯沢市ゼロカーボンシティ宣言（2050年Co2排出量実質ゼロ）
→湯沢市、湯沢市議会、湯沢商工会議所、ゆざわ小町商工会の4者共同宣言

令和4年11月

地元高校生によるロゴマーク、PR看板の製作

令和5年1月

横浜市と「再エネを活用した地域活性化に関する連携協定」を締結

令和5年2月

(株)e-Mobility Powerと「湯沢市内のEV普及促進に向けた連携協定」を締結

令和5年3月

市営の急速充電スポット（3カ所）を開設、EV公用車5台導入

以下予定

令和5年秋

全国初！脱炭素がテーマのピッチイベント(Yuzawa Zero Carbon Pitch)の開催

令和6年2月

湯沢市ゼロカーボン推進計画（兼/区域施策編）の策定・公表

令和6年4月

市民・事業者・行政によるゼロカーボン施策の本格稼働

湯沢市ゼロカーボン推進計画の策定 ～構成イメージ～

- 2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロを図るとともに、**地域課題の解決**や**地域経済の活性化**による持続可能なまちづくりを進めるための計画を策定する。
- 本計画は、**地方公共団体実行計画（区域施策編）**の要素に加え、**2050年に向けた長期ビジョン**や**ロードマップ**等を描くものとする。

湯沢市ゼロカーボン推進計画 <期間2024～2050>

本市の現状と課題

- 自然的・社会的・経済的な特性と地域課題
- 地球温暖化の動向（国・県・市）
- 温室効果ガス排出量・森林吸収量の現況
- 再エネ導入状況・ポテンシャル

将来ビジョン

- 2050年のあるべき姿
- ゼロカーボンに向けた基本方針
（例…循環型社会、森林保全、GX等）

整合

目標設定

- GHG排出削減目標（2030年/2050年）
- 取組施策ごとの目標（成果指標）

ゼロカーボンの実現化方策

- 2050年までのシナリオ・ロードマップの整理
- 中期施策（2030年まで）と長期施策（2050年まで）の検討

重点プロジェクト

今後3年で取り組む施策を立案。市の財政計画と連動。

計画のベース ⇒ 秋田県提供の支援ツール

GHG排出量等のデータ、実行計画（区域施策編）策定マニュアル、計画ひな型、湯沢市版のモデル計画 等

湯沢市ゼロカーボンシティ宣言 2022.6.28

目的

市民・事業者・行政が一体となって、**2050年までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロにする**「脱炭素化」を図るとともに、**本市の特色**を生かしながら持続可能なまちづくりを進める。

- POINT -

単に「減らす・やめる」ではなく、新たな価値を“創り”市の持続性を“高める”ことが主眼。取組を進めることで、「環境」だけでなく、相関する「経済」や「社会」の課題解決につなげる。

同時解決

◆環境の課題

CO₂の排出削減、エネルギー問題、森林・農地の荒廃 等

◆経済の課題

地域経済の衰退、地産地消、就労機会の確保、人材育成 等

◆社会の課題

人口減少、地域活性化、コミュニティの希薄化、地域防災 等



湯沢市ゼロカーボンシティ宣言



近年、地球温暖化が原因と見られる異常気象が世界各地で発生しています。湯沢市においても、これまでに経験したことがないような猛暑や豪雨、豪雪などが頻発しており、その対策は喫緊の課題となっています。

2018年のIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、「2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることが必要」とされており、日本では、2020年10月に政府が「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。

このような中、湯沢市においても、先人から受け継がれてきた「ふるさとゆざわ」の自然や文化を未来に生きる子どもたちに、しっかりとつないでいかなければなりません。

私たちは、直面する地球温暖化に歯止めをかけ、環境・経済・社会の持続的な発展を図るため、温暖化の原因となる温室効果ガスの排出を抑制し、脱炭素社会の実現に向けて取り組む決意をしました。

以上の背景と趣旨をもとに、2050年までに湯沢市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを目指し、それを実現するための市民生活、事業活動、行政施策などを、市民、事業者、行政が一体となって力強く進めていくことを誓い合い、ここに、「ゼロカーボンシティ宣言」を行います。

2022年 6月 28日

湯沢市長

佐藤 一夫

湯沢商工会議所会頭

和賀 幸雄

湯沢市議会議長

渡部 正明

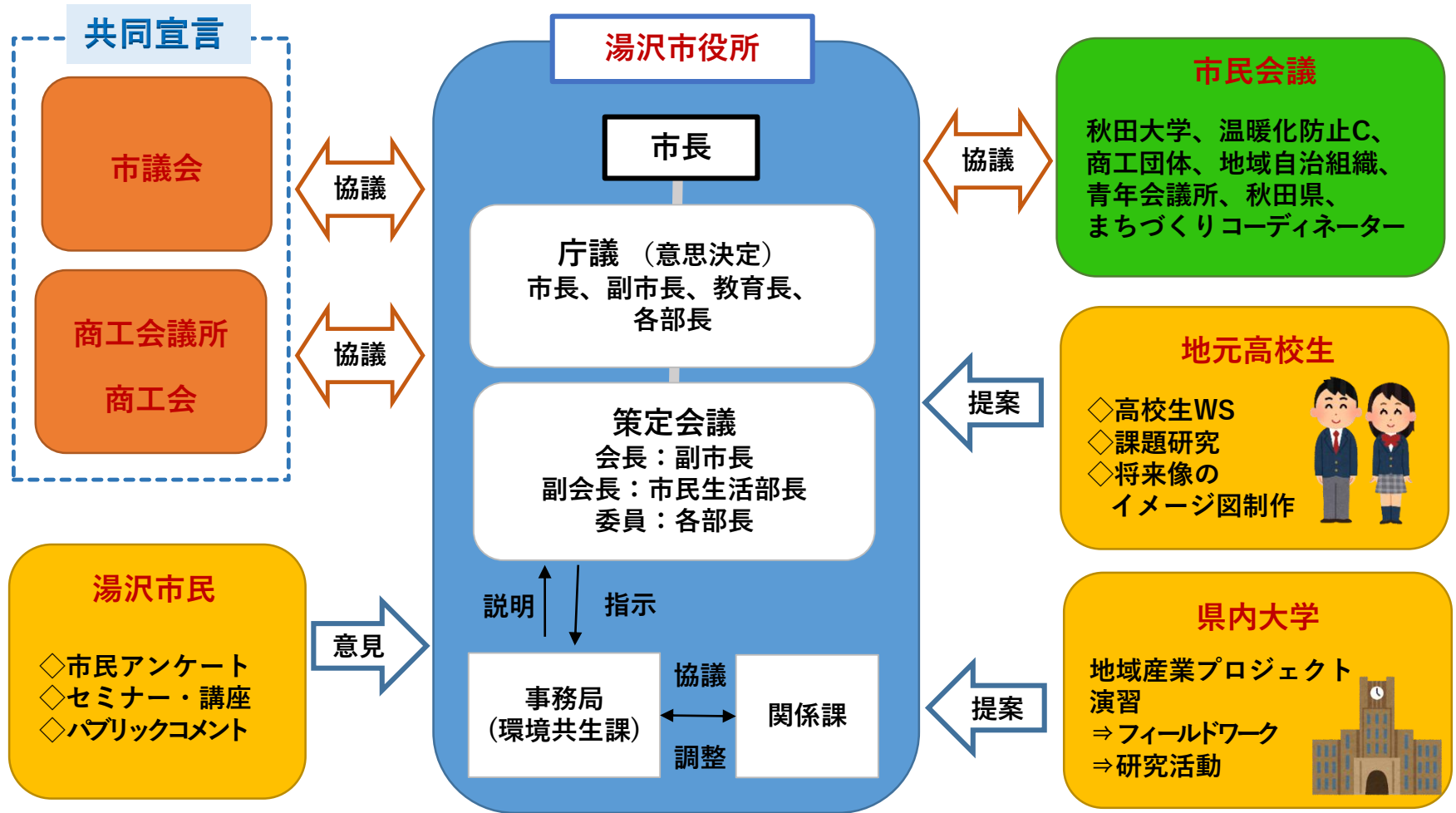
ゆざわ小町商工会会長

作藤 正明

この用紙は、湯沢市役所から廃棄された使用済みの紙を原料にして、数式オフィス製紙機で併製しました。

湯沢市、湯沢市議会、湯沢商工会議所、ゆざわ小町商工会の4者共同宣言

湯沢市ゼロカーボン推進計画の策定 ～多様な主体との協働～



～ 地域みんなで「ゆざわの未来」を描き、できることから形にしていく ～

湯沢市ゼロカーボン推進計画の策定スケジュール

年	令和5年							令和6年	
月	6	7	8	9	10	11	12	1	2
計画策定の流れ	計画構成、現状分析、課題の整理		ビジョン、目標設定、施策の検討		計画（素案）の作成		パブコメ		計画策定・公表
市民会議		● 第1回 背景・現状		● 第2回 計画（骨子）		● 第3回 計画（原案）、 提言まとめ		● 提言 会長→市長	
その他意見等	市民アンケート		高校生等ワークショップ			秋田大学・秋田県立大学 地域産業プロジェクト演習			
予算				関係課協議		令和6年度予算 庁内協議		令和6年度予算 議会審査	